

由布岳

由布岳は豊後富士とも呼ばれ、由布院盆地から仰ぎ見る山体はとても美しい山です。東峰と最高峰の西峰のふたつのピークからなります。古来より信仰の対象として崇められ、「古事記」や「豊後国風土記」にもその名が記されています。

【由布岳と久住山の妻争い】

由布岳は由布院のシンボルであり、容姿端麗な美男子の山でした。そして、由布岳の東側に200mほど低く、つつまじやかに控えている鶴見岳は女性の山だと言われています。この二人の山は、近くにおいて幼友達でもあるので、心の中では想い合っている仲でし

た。しかし、この若者の由布岳にとって、思わぬ恋敵が現れます。それは、はるか西の彼方にドンと構えている標高1788mの久住山でした。彼は九重連山の主峰として、九州本土随一の高さを誇る凛々しい男性の山でした。

背の高い若者の久住山も、鶴見の姫のことが好きになり、由布岳の存在などお構いなしに猛烈にアプローチし始めました。彼はなんとかして鶴見岳の機嫌をとうとうとしてミヤマキリシマのきれいな花束の贈り物を持って遠路はるばる毎日やってきて「山の高さでは、豊後の国はおろか九州中で私にかなうものはおりません。私はあなたが好きでたまりません。どうか私の気持ちを分かってください。」と鶴見

岳に伝えていました。さすがにつつまじやかな鶴見の姫も久住山の熱心さに、つい心が動き、「それほどまでに私を想ってくださいのなら・・・」と考え始めました。鶴見岳の気持ちが少し久住山に傾きはじめて事を知った由布岳は大変驚いて、「近くに私というものがいるのに、よそ者に惹かれるとはあんまりです。高さこそ、久住山にはかないませんが、私のところの花は決して彼のところに負けません。」と言って、ミヤマキリシマやエヒメアヤメ、サクラソウの花束を捧げて自分の心情を訴えました。

鶴見岳は由布岳のまごころに強く心を打たれて思い返し、二人は夫婦となりました。恋に破れた久住山は、大いに悲しみ大粒の涙を流して何日も泣き続

け、その涙が溜まって出来たのが鶴見岳の麓にある志高湖となりました。また、夫婦となった由布岳と鶴見岳との間に生まれた子どもが鶴見岳の東側に連なっている標高792mの扇山と言われています。今でも由布岳と鶴見岳はすく近くに仲良くそびえています。ふたつの山の仲が熱いので、由布院と別府には熱い温泉が溢れるほどに湧き続けているのです。



【山の背比べ】

むかしむかし、日向の国（現在の宮崎県）のほぼ中央に、「日向岳」という名前の山がありました。あまり高い山がないこの国では、名前が示すように、高さといいたい、姿といいたい、日向の国を代表する誇り高い山として知られていました。

そこで彼はいつも周囲の山に向かって「おれは、この国では一番背が高いのが自慢だ。おまえたちが低すぎるので、背比べの相手にならず、いつも張り合いがない。」と威張り散らしていました。これを聞いて、日向の山々はいつも悔しく思っていました。背比べをすれば明らかに負けてしまうので仕方なく黙っていました。ところが、わずかに高さが及ばないため、

そして、由布岳の麓の城島高原あたりに突っ立って「やあやあ、お前が由布岳か。豊後では高い山だと威張っていると聞いているが、俺は日向の国で背が高いのが自慢の日向岳だ。どちらが勝つか、実際に比べてみようではないか。いざ、尋常に勝負、勝負ー」と、声高らかに名乗りを上げました。気負い立った日向岳は、さうらに歩みを進め、由布岳の横に並んで、「やあ、どうだー」と、背の高さを比べてみました。ところが、これはどうしたのか。日向岳の頂上は、由布岳の肩の当たりにも届きませんでした。これにはさすがの日向岳も、今までの元気はどしゃぶら。一気に全身の力が抜けて、へなへなとその場に座り込んでしまいました。

馬鹿にされていた隣の山が「なるほど、このあたりで

はおまえが一番高い山だと威張っているが、『井の中の蛙』とはこのことだ。お隣の豊後の国に行ってみよ、お前よりも高い山がたくさんあるぞ。中でも豊後富士と呼ばれる由布岳は姿が素晴らしいうえに、背ももっと高いと聞いている。お前なんぞ、とうてい太刀打ちができないだろう。」と口頃のうつぶん晴らしに思い切り嫌味を言いました。これを聞いた日向岳は憤然として、「由布岳なんぞ、聞いたこともない。よし、それなら今から行って、背比べをし、見事やっつけて、そいつの鼻を明かしてくれようぞ。」と力みかえり、さっそく大きな図体を引っ下げてはるばる日向の国から、のっそのっそと豊後の国までやって来ました。

そして由布岳を見上げながら、蚊の鳴くような小さな声で、「えらく大きなことを言って、国を出てきた以上、面目なくてこのまま日向の国には帰れません。これから、あなたの家来になりますので、どうか私をここに置いてください。」と言って、そのまま動かなくなっていました。

由布岳の東南麓に、その子分のようにくっついて、こんもりと針葉樹に包まれた円錐型の山がそれと云われており、標高は10883です。

